

令和 7 年 11 月 20 日

日本国際情報学会ファミリービジネス研究部会
2025 年度第 2 回研究部会報告書

2025 年度第 2 回目の日本国際情報学会ファミリービジネス研究部会が開催されました。

【日時】 令和 7 年 10 月 19 日（日） 10：00～11：30

【場所】 日本大学通信教育部 1 号館 62 講堂

【講演題目】『コモンズ管理と長寿 FB の役割～城崎温泉の「共存共栄」戦略～』

【講師】 森下あや子 氏

日本経済大学大学院経営学研究科・同大学経営学部教授
博士（工学）

【内容】 千年企業を含む長寿 FB が多数存在する城崎温泉。彼らは幾多の危機を乗り越え、温泉資源というコモンズを管理し、地域社会の共存共栄を実現してきた。歴史的に育まれた理念を基盤に、競争と協力を両立する仕組みと長寿 FB の役割について、城崎温泉関係者に対する数多くのインタビュー、文献・参考資料の渉猟、コモンズ管理・地域共存共栄の理論を通じて研究を重ねてこられた森下あや子先生のご講演。

- ①半径 500m の範囲内に 7 つの外湯、約 40 軒の物産店・飲食店、77 軒の旅館が軒を連ね、温泉街全体を一つの旅館と見立て、共存共栄の街づくりを進める城崎温泉の概要の紹介。
- ②自然災害、戦争、疫病、紛争など様々な危機を経験した城崎温泉。中でも、温泉街に火災をもたらし温泉街全体が壊滅状態に陥った北但地震（1925 年）、温泉という共有資産をめぐる自家源泉を認めるか否かの度重なる内湯騒動の紹介。
- ③北但地震復興の陣頭指揮を執った長寿旅館西村屋の 4 代目でもある町長を中心に共存共栄を掲げた町民一丸となつての復旧活動、三木屋と湯島財産区の共有資産をめぐる内湯騒動を経て現在の制度化された城崎温泉の源泉の管理と利用の仕組みが出来上がった経緯などの解説。
- ④城崎温泉が温泉資源というコモンズを管理し社会の共存共栄を実現してきた背景として、城崎の地域特性と FB のリーダーシップの存在が示された。前者は、ほとんどの住人が城崎に根付いており、幼少時からお互いをよく知り、江戸時代から続くだんじり祭りなどで地域の強い結束力を形成していること。後者は、有力旅館から多くの町長を輩出する中で、彼らの

リーダーシップが共有資源をめぐる危機管理に発揮されたこと、が詳細に説明された。

- ⑤ 共有地の悲劇（Hardin、1968）に陥らないための、コモンズ管理のための 8 つのルール（Ostom、1990）が自ずと示現されているのみならず、過去の危機の経験を通して、地域に根付いた FB の社会資本に基づくリーダーシップが地域レジリエンスシステムにも発展していると述べられた。

【質疑応答】 自身も老舗旅館の当主である参加者をはじめ、参加者の多くから積極的な質疑が寄せられ、森下先生との活発な意見交換が行われた。

【参加者】 階戸先生、加藤先生他 12 名（うちオンライン参加者 3 名）



以上

日本国際情報学会
ファミリービジネス研究部会
幹事 木下義文